

MT 法データベースの再構築 - 会津地域を例にして -

高倉 伸一 [1]
[1] 産総研

Reconstruction of the MT method database: a case study in the Aizu area, Fukushima, Japan

Shinichi Takakura[1]
[1] Geological Survey of Japan, AIST

<http://staff.aist.go.jp/takakura-s/>

The MT method is suitable for depths investigation. This method has been briskly used in geothermal investigation or an academic investigation since the 1980s. There is a vast quantity of MT data acquired in many organizations. However, those MT data are not necessarily used effectively. One of the reasons is that many data are recorded in various formats. As for the data acquired before the 2000s, the Tokyo land survey system is used for the position information. That is, MT database which can be used substantially does not exist now. Therefore, we began conversion of the past data using the SEG-EDI standard format and reconstruction of the MT database. This paper introduces three examples of MT investigation carried out in the Aizu area, Fukushima.

MT 法は深部探査に適した電磁探査法であり、1980 年代頃から地熱探査や学術調査などで盛んに利用されるようになってきた。これまでたくさんの機関によって多くの MT データが取得されている。しかし、それらのデータは必ずしも有効利用されていない。その理由と 1 つとして、多くのデータが統一したフォーマットで記録されていないことがあげられる。また、1990 年代以前に取得されたデータでは、位置情報に東京測地系が使用されていることが多い。過去には地熱研究などで MT 法のデータベースは作られたが、実際には多くの人が利用できるデータベースは無く、必要に応じて個人あるいは組織ごとにデータの交換などが行われている。このような現状は、MT 法研究にとっては非効率的であり、MT 法の有効活用を妨げることにもなっている。そこで、MT 法の標準フォーマットである SEG-EDI ファイルにデータを変換し、多くの人が使えるようなデータベースの再構築を開始した。ここでは、会津地域で実施した 2 つの調査例 - 奥会津地熱地域と会津盆地西縁断層 - について紹介し、データフォーマットを統一する際の問題点、データの著作権の問題など、データベース構築に関する課題について発表する。